保多留

◆建設的な生き方へのお手伝い （*Just do it！*）◆
～あなたの悩み事は当社までご相談下さい～
【今月の一冊】タピオカ屋はどこへいったのか？
菅原 由一 著　KADOKAWA出版
ホームページ　URL http://primecorporation.jp/

発行日　2024年5月1日　Vol. 259
発行元　有限会社プライム・コーポレーション
代表取締役　渡邉 敏徳
〒401-0015 山梨県大月市大月町花咲147番地
TEL 0554-22-2810 FAX 0554-22-2859

“宇宙ゴミ”問題

今、世界の各国が通信や偵察・監視に限らず軍事作戦行動から情報戦に至るまで、戦争のあらゆる局面が宇宙システムに依存しています。私たちの生活の身近なことで言えば、全地球測位システム（GPS）の位置情報、時刻情報に多くの社会システムがなくてはならないものになっています。航空機の管制、銀行のATM、株式市場の取引から電力網のスマートグリッドまで、宇宙からの時刻同期情報や位置情報が不可欠になっています。「宇宙を制する者が将来の世界の覇権を握る」と言われるようになってきた理由です。

その裏で、“宇宙ゴミ”（スペースデブリ）が大きな問題になっています。NASAをはじめ世界各国の宇宙機関は“宇宙ゴミ”の対策に抜本的な解決技術がなく手をこまねいています。

2021年5月、中国のロケットの残骸が地上に落下する恐れがあるというニュースが流れ、騒然となったことは記憶に残っています。

“宇宙ゴミ”とは、軌道上にある不要な人工物体のことですが、その恐ろしさは速度にあると言われています。地球低軌道では秒速7～8kmのスピードで軌道を周回していて、約90分で地球を1周します。このスピードで衝突すれば膨大なエネルギーが解放され、今現在すでに飛行している人工衛星や宇宙船、船外活動中の宇宙飛行士への脅威となります。

宇宙航空研究開発機構（JAXA）によると、“宇宙ゴミ”の数は地上から追跡されている10cm以上の物体で約2万個、1cm 以上は50～70万個、1mm 以上は1億個を超えるとされます。これが増加していけば将来の宇宙活動に大きな支障をきたす恐れがあります。

宇宙ゴミを放置すると、宇宙ゴミ同士が衝突してその破片が新たな宇宙ゴミとなっていきます。これは「ケスラーシンドローム」として知られており、一つの衝突が大量の追加ゴミを生み出し、それが更に多くの衛星に衝突する… という形で指数関数的に宇宙ごみが増加する可能性が心配されています。現役で稼働中の人工衛星は約4300機、2030年までには約4万6000機が打ち上げられると言われています。

地球温暖化対策も進めていかなければいけない中で、地球の周りの宇宙環境も対策が迫られています。各国の利害もありますが、一定のルール化を早く策定して地球を取り巻く環境を守っていかないと、地球で暮らせなくなる日が来るかもしれませんね。

Z世代

最近「Z世代」という言葉をよく耳にします。ニュースでもテレビの番組でも当たり前に使用されている言葉で、何となくこんな意味じゃないかなぁということで特に調べもせずに済ましてしまっています。Z世代とは、1996年から2012年までとする定義が最も一般的です。

Z世代は英語圏で「Generation Z」といい、ミレニアル世代の下の世代であるため「ポストミレニアル世代」とも呼ばれます。なぜ“Z”世代かというと、アルファベット順で呼ばれているからです。Z世代の前の世代を「X世代」「Y世代」と呼んでいます。アルファベット順で考えると、次はZとなるため「Z世代」と呼ばれています。さらにZ世代より若い世代については、α（アルファ）世代と呼ばれています。

2020年時点で世界のZ世代が占める割合は約24％で、その購買力は15兆円といわれています。アジア太平洋地域（APAC）でも、2025年までにZ世代が人口の約25％となる見込みです。Z世代は今後社会の中心となり、収入も支出も増えていくので、企業にとって重要な存在です。アメリカでは総消費の40％をZ世代が占めており、購買力は約5兆円あり、将来的には約22兆円まで成長すると予想されているそうです。

Z世代は多様性を尊重する傾向があり、SDGs を学校で学んでいるので、環境問題や社会問題への関心も高い世代です。Z世代はこれからビジネスの重要な顧客であり、この世代を理解することは今後とても重要になってくると思います。

* * *

【座右の銘にしたい名言】

やるだけのことはやって、後のことは心の中でそっと心配しておれば良いではないか。どうせなるようにしかならないよ。

勝 海舟（幕末の武士・幕臣、政治家）